

令和4年度

学校評価結果報告書
(中間評価)

広島県立加計高等学校

目 次

- 1 令和4年度自己評価シート(中間評価) (様式2) ……1
- 2 令和4年度学校関係者評価シート(年度末評価) (様式4) ……3

令和4年度自己評価シート(中間評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	二川 一成	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

1 短期(本年度)経営目標

<p>【短期(本年度)経営目標 ①】進路 生徒個々の資質・能力に応じた進路目標を早期に明確にさせる。</p>	
<p>【本年度行動計画】 定期的できめ細かい個別面談を通じて、個々の資質・能力、進路希望に応じたキャリアカウンセリングとファシリテートを行い、学習意欲や勤労観など進路選択に向けた意欲を喚起する。 [1年]担任…長期休業明け・11月(コース選択) [2年]担任…長期休業明け・11月(科目選択) 進路…2月～春休み [3年]担任…長期休業明け 担任+進路…4月・6月・10月・12月</p>	<p>評価</p> <p>B</p>
<p>【短期(本年度)経営目標 ②】進路 家庭学習時間調査結果に基づき個別指導を行う。</p>	
<p>【本年度行動計画】 G Suite を活用し学習時間の見える化を図る。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>
<p>【短期(本年度)経営目標 ③】生徒育成 生徒会執行部を中心とした自治活動を推進する。</p>	
<p>【本年度行動計画】 行事等を主体的に企画・運営させる。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>
<p>【短期(本年度)経営目標 ④】国際交流 国際交流に関わる活動を推進する。</p>	
<p>【本年度行動計画】 生徒の自主的な集まりである「おもてなし隊」を中心に企画・運営させる。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>
<p>【短期(本年度)経営目標 ⑤】教務 「授業づくり」等を進め、指導力の向上を図る。</p>	
<p>【本年度行動計画】 ICTの活用について研修を行う。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>
<p>【短期(本年度)経営目標 ⑥】管理職 業務分担の偏りを改善し、職員の時間外勤務を減少させる。</p>	
<p>【本年度行動計画】 情報共有による集団での指導を推進する。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>
<p>【短期(本年度)経営目標 ⑦】探究 探究活動の時間を活用し、地域との連携を深める。</p>	
<p>【本年度行動計画】 商品開発や地域の諸課題解決への提案を行う。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>
<p>【短期(本年度)経営目標 ⑧】生徒育成 地域行事への参加等ボランティア活動を推進する。</p>	
<p>【本年度行動計画】 生徒会を中心に啓発活動を行う。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>
<p>【短期(本年度)経営目標 ⑨】管理職・生徒募集 学校の魅力を発信し、生徒募集につなげる。</p>	
<p>【本年度行動計画】 生徒が中心となって学校の魅力を発信する。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>

※ 学校経営計画に記載している短期(本年度)経営目標の数に応じて表を追加する。

2 中間評価のまとめ

<p>評価結果の分析</p>	<p>①個別面談を計画どおり進めている。特に3年生の面談においては、志望校の絞り込みや一般選抜への見直しなど個々の状況に食い込んだきめ細かな指導（オーダーメイドの進路指導）を行っている。</p> <p>②全学年ともに学習時間調査を実施している。ただ、毎日報告できる生徒はわずかであり、生徒の学習に向かう意識向上や、集約したデータの活用方法の工夫などに課題がある。</p> <p>③コロナ禍で多くの制約があったが、文化祭・体育祭等、執行部が中心となって生徒の積極的な活動を行う事ができた。</p> <p>④7月に広島県内の大学で学ぶ留学生を迎え交流を行うなど、「おもてなし隊」の活動は計画通りに進んでいる。11月には3年ぶりに海外（韓国の姉妹校）からの来客を迎える予定である。「おもてなし隊」の真骨頂を披露できるよう計画中である。</p> <p>⑤本校に導入されている遠隔教育機材（電子黒板等）の使用方法について、全教職員へ研修を行った。これは、遠隔授業のみならず、Zoomや電子黒板としての使用法も考えられるものである。</p> <p>⑥超過勤務45時間/月以下の職員の割合は9月時点で74%（目標70%）である。夏季休業中の8月については、100%であり、計画的な休暇の取得はできている。</p> <p>⑦概ね当初の計画通り進められている。8月には地元地域商社あきおたとの繋がりから、横川マルシェを地域と協力して行うことができた。また、本校コーディネーター（みらい株式会社）とも、積極的に連携を図り、探究活動を充実したものとなるよう取り組んでいる。</p> <p>⑧昨年と比べて、若干行事等も実施されてきたが、まだまだ地域での多くの行事が中止となり、厳しい活動状況が続いている。</p> <p>⑨生徒が中心となって地域みらい留学フェスタ、オープンスクール、中学校訪問、SNSなど充実した情報発信ができています。その成果として、中学生・保護者の参加が昨年に比較して確実に増加しており、県外からの個別の学校見学も48件（昨年23件）と大幅に増加している。</p>
<p>今後の改善方策</p>	<p>①下半期はより一層生徒個々の学習状況に目を配り、個別指導担当者を中心に教科・分掌と連携をしながら、生徒・保護者の願いを実現できるよう懇切丁寧な指導を展開する。</p> <p>②集約したデータを活用し、ラーナーズチャンピオンシップ等の意欲喚起策をとりながら、生徒の学習に向かう意欲や姿勢を引き出す働きかけを工夫していく。</p> <p>③「蓄積と伝承を合言葉」に、先輩から後輩へのバトンの受け渡しを意識させる生徒間のディスカッションを継続させていきたい。</p> <p>④JICA及びJOCAなど、関係機関との連携をさらに密に行っていく。</p> <p>⑤今後も、導入された機材を積極的に活用していく。11月には授業観察期間を設けるため、お互いが授業を参観し合うことにより、授業力・指導力の向上を図っていく。また、地元小・中学校の研究授業にも参加していく。</p> <p>⑥情報共有による組織的な指導を推進するために、教職員必携等の活用と校内の整理整頓に努め、お互いが協力して業務改善に繋げて時間外勤務の縮減を進めていく。</p> <p>⑦引き続き、本校コーディネーターや地域商社等を協力し、内容の充実を図っていく。また、探究活動のまとめとして、地域に向けた課題解決の提案・商品開発等を行っていく予定である。</p> <p>⑧地域でのボランティア活動が再開できるようになるまで、校内でのボランティア意識を高めるため、探究活動等との連携を図り、生徒会を中心として意欲的な生徒の育成に努める。</p> <p>⑨コンスタントでタイムリーな情報発信に心がけ、HPの掲載や地域との連携も工夫していく。</p>
<p>学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>志を高く持ちチャレンジする生徒を育成するオーダーメイドの進路指導を推進する。具体的な方策としては、教員が地元の幼・小・中に行き、安芸太田町の協調学習等の教育活動に触れる機会を持つ。地元の児童・生徒の本校入学前の状況を知ることにより、一貫した指導が可能となり、さらなる学校の活性化や地元中学生の入学率向上が期待できる。</p>

令和4年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和4年10月28日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	二川 一成	全・定・通	(本)分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	------

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A 6人 B 1人	<p>生徒一人一人に細かくかかわっていただいて、目標設定や教育相談を行いながら、校内外で実行可能な計画が立てられている。</p> <p>生徒のやりたいを引き出し、実現に向けて動いている。</p> <p>目標、指標、行動計画とも具体的かつ適切に設定されている。</p> <p>生徒の現状をしっかりと把握した上で目標が設定されている。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A 5人 B 2人	<p>生徒会を中心に自主的な活動が多く計画されており、進捗状況や成果等が適正に評価されている。適切である。</p> <p>進捗状況も具体的に示されている。</p> <p>コロナ過の影響を受けている計画について、概ねできるようになっていると推察するが、国内ではまだ通常運転の難しさは残るため、リスクヘッジの意識は引き続き必要と思われる。</p> <p>計画の進捗状況の評価は段階的にその都度適切に行われている。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	A 5人 B 2人	<p>職員で意識統一を図りながら、生徒の願いや思いを大切にされた指導がなされ、多様な取組が進められている。</p> <p>生徒の確かな学力向上を図るために家庭学習、公営塾の活用などが自律的な学習となるよう内容や方法についてさらに工夫されることを期待する。</p> <p>ボランティア活動について、生徒会中心の啓発活動と生徒自身の主体的な参加を継続している。今後、地域とも密に連携し、年間計画に基づいた計画的な参加体制も必要である。</p> <p>目標達成に向けて、各項目とも具体的に取組まれている。</p> <p>目標達成へ向けての先生方の努力が伺える。</p>
評価結果の分析の適切さ	A 6人 B 1人	<p>学習時間調査実施について、「毎日報告できる生徒はわずか」という点で、生徒の学習に向かう意識向上の取組に期待したい。</p> <p>適切に分析されている。</p> <p>取り組んだ内容が具体的に示され評価内容も適切である。</p> <p>計画の目標達成の分析が随所に行われていることが伺える。</p>
今後の改善方策の適切さ	A 5人 B 2人	<p>⑤に記載されているように小中学校との合同授業研究を活性化させていただきたい。</p> <p>生徒の目標（学習、部活動、その他の活動）を明確にして、目標達成に向けて何が不足していることを補うにはどうしたら良いか考えて具体的な行動に繋げていけるよう今後も継続して粘り強い指導をお願いしたい。</p> <p>改善法等も具体的に示され、内容も適切である。</p> <p>先生と生徒が一体となって目標達成へ向けて取り組んでいることが伺え、今後の改善方策も適切に行われている。</p>
総合評価	A 6人 B 1人	<p>すばらしい取組が数多く実践されており、引き続き魅力発信に力を入れてもらいたいと思います。</p> <p>R1年度3名の退学者があり、その後0名となっている。退学者、転学者にも目を向けてほしい。</p> <p>加計高校に入学したいという熱い思いが、3年間で大きな自信となるよう引き続き進路実現に向けてご指導をお願いしたい。</p> <p>「評価結果の分析」または「今後の改善方策」の中で取組にどのような課題があるからその課題に向けて「今後の改善方策」を設定しているというように示されればわかりやすくなると思う。</p> <p>コロナ過にあつての先生方の努力と生徒の目標達成のための意欲がすばらしいと思われる。</p>

A とても適切である。 B 概ね適切である。 C あまり適切でない。 D まったく適切でない。 H 判定できない。